

情報リテラシー教育の実際

千葉大学附属図書館

尾城 孝一

ojiro@ll.chiba-u.ac.jp

アウトライン

- 情報リテラシーとは何か
- 大学図書館における展開
- 事例の紹介(千葉大学附属図書館)
- 課題とその解決に向けて

情報リテラシーとは何か

リテラシー

- 生活言語で短く簡単な文章を読み書きする能力
- 3R (Reading , (W) Riting , (A) Rithmetic)
- 「読み・書き・そろばん(計算)」

機能的リテラシー

- 「日常生活・職業生活の中で、また地域社会の発展のために、役立てることのできるような基礎学力のこと」(『新教育学大辞典 第6巻』第一法規, 1990, p.499-500)

情報リテラシー

- 「情報社会」における機能的リテラシーの一種
- 「情報社会」において生活していく上で不可欠な知識や技能

類縁概念

- コンピュータリテラシー
 - コンピュータで何ができるのか, できないのかをすること
 - プログラミングの習得やハードウェアの知識
 - ネットワーク通信や各種アプリケーションを利用して, 情報の収集・整理・発信等を行うための能力

類縁概念(続き)

- メディアリテラシー
 - マスメディアから情報を批判的に解釈しながら受け取る能力
 - 種々の情報メディア(特に電子メディア)の「使い方」

情報リテラシーとの関わり

- 「コンピュータ」という「メディア」を使って「情報」を活用する，すなわち探索，整理，分析，発信する能力

図書館における定義

- 米国図書館協会(American Library Association: ALA)情報リテラシー諮問委員会の最終報告書(1989)
 - 「情報リテラシーとは、情報が必要なときそれを認識する能力、および、必要な情報の発見、評価、利用を効果的に行う能力である。…」

図書館における定義(続き)

- 米国情報リテラシー・フォーラム(National Forum on Information Literacy: NFIL)調査報告(1992)
 - 「さまざまな情報源から情報にアクセスし、評価し、利用する能力」
 - 情報リテラシーを身に付けた人の持つ属性(10項目)

図書館における定義(続き)

- 日本図書館協会図書館利用教育委員会(1999)
 - 「情報探索法・整理法・表現法などを含む総合的な情報活用能力。コンピュータ利用能力だけでなく、情報の評価および情報倫理の理解も含めて、あらゆる情報の活用が可能な能力をいう。図書館利用能力も大きな部分をしめている。」

大学図書館における展開

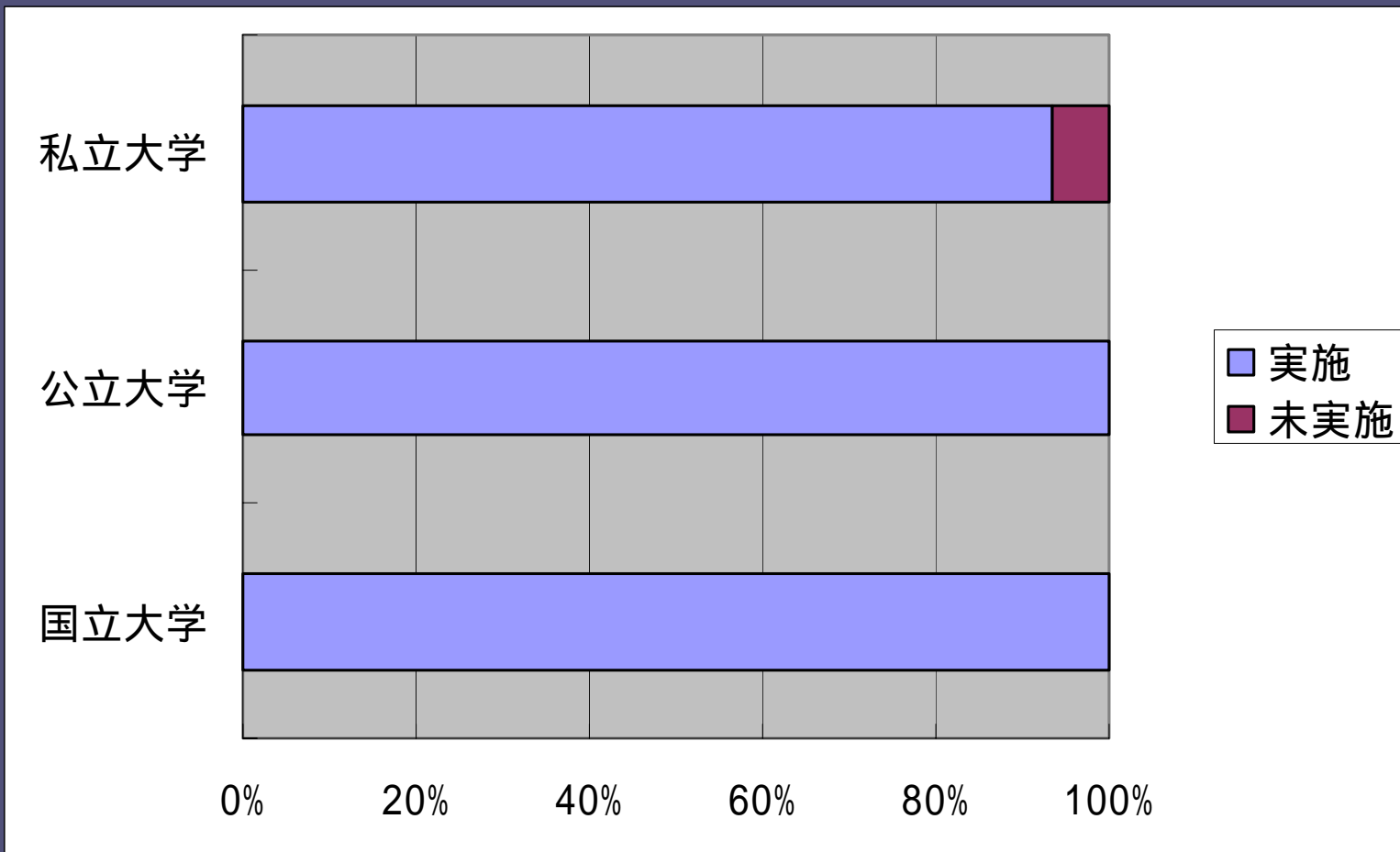
大学図書館と情報リテラシー

- 情報リテラシー「習得」の場
 - 図書館の教育的機能の一部として、情報リテラシーの習得、向上を支援する
- 情報リテラシー「実践」の場
 - 利用者が身につけた情報リテラシーを使って、情報を探索・利用・発信するための環境、基盤を提供する

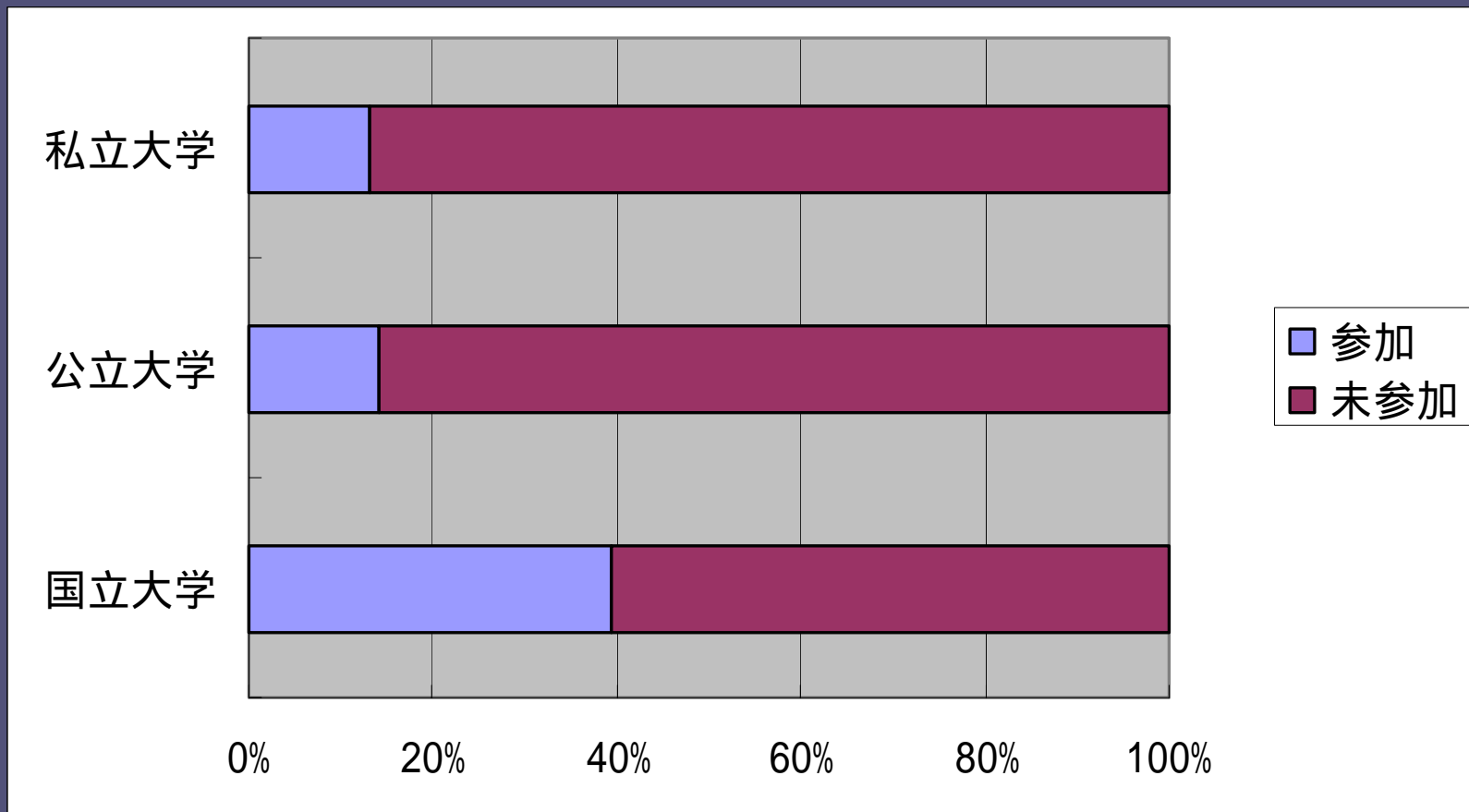
「大学・高専図書館における情報リテラシー教育」

- <http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Club/4479/>
- 平成12年度科学研究費補助金奨励研究(B)
- 橋洋平(金沢大学附属図書館)
- 平成12年7月から8月に実施
- 回収率73.4%

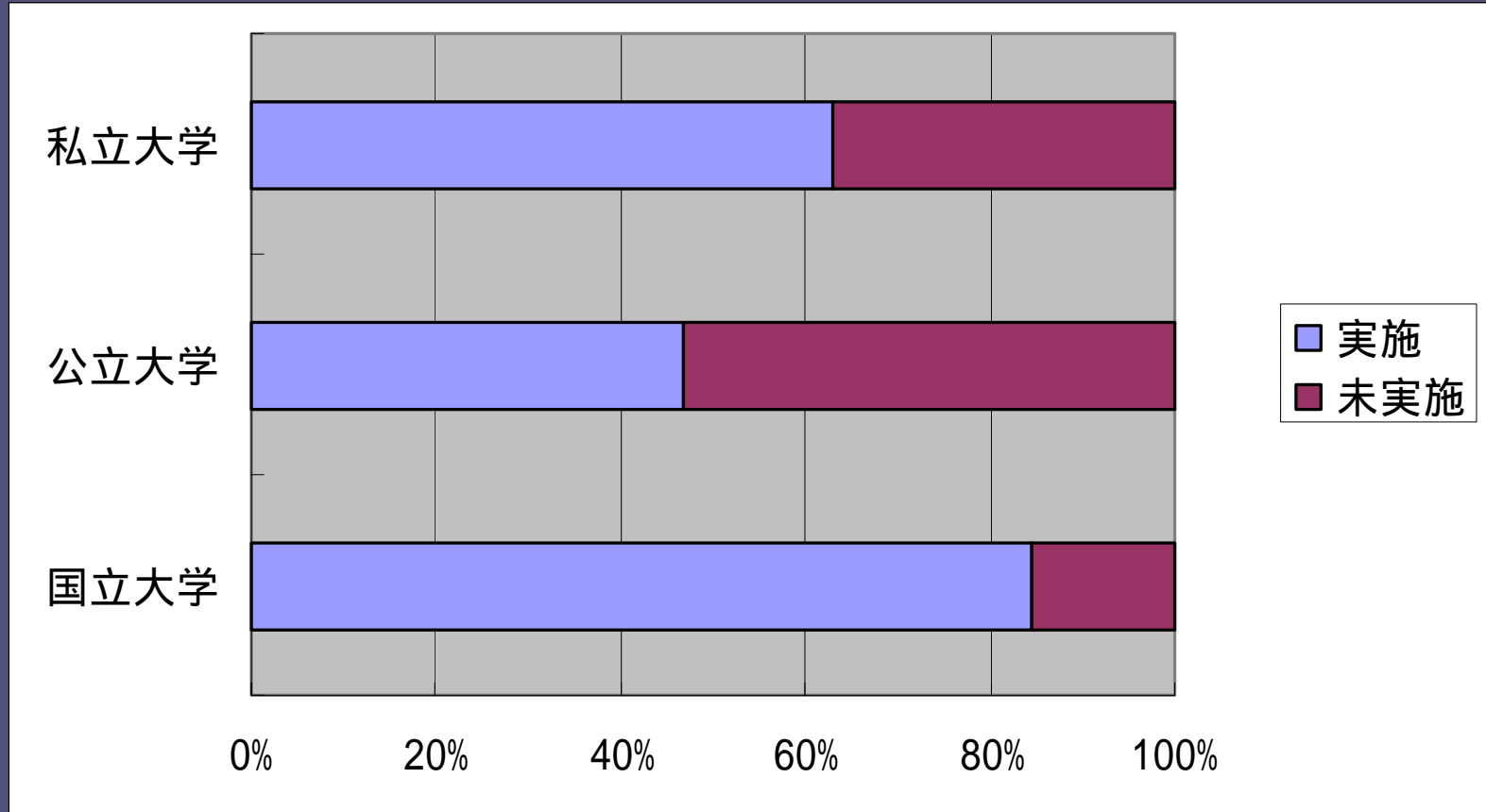
新入生オリエンテーションの実施率



情報リテラシー教育への参加率



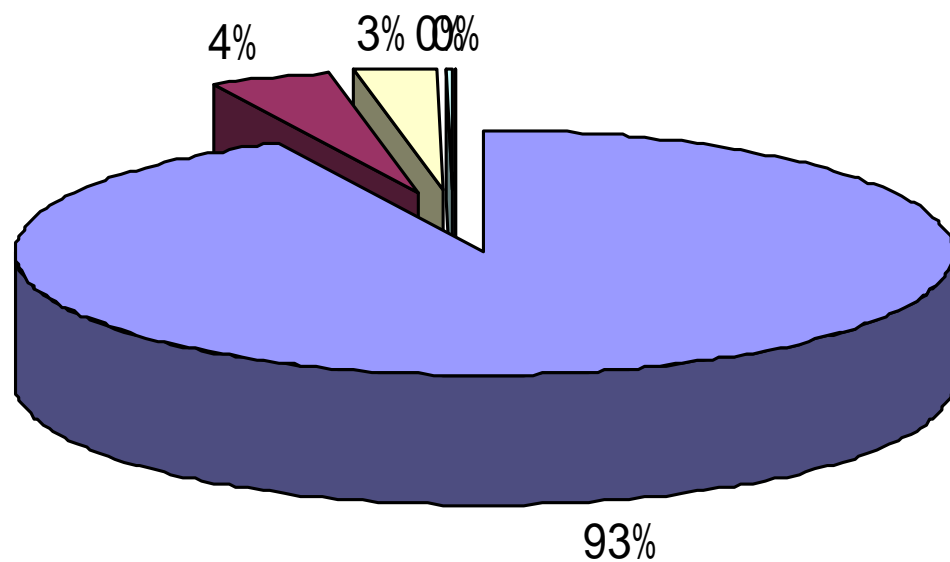
その他の利用教育の実施率



「大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能 - アンケート調査結果 -」

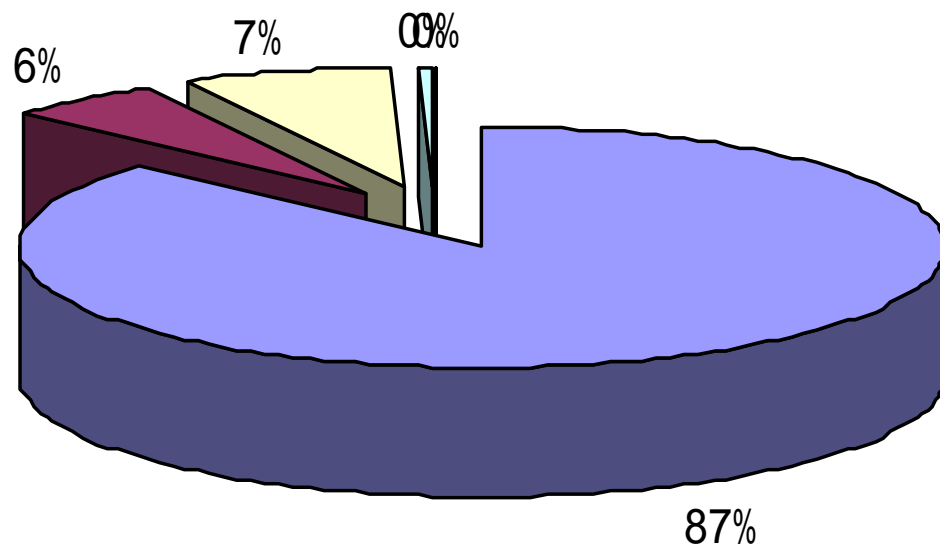
- <http://www.cl.aoyama.ac.jp/~tnozue/ugl/report.html>
- 大学図書館研究プロジェクト(代表:三浦逸雄)
- 学習・教育活動を支援する大学図書館サービスの実施状況
- 平成13年2月実施

新入生オリエンテーション



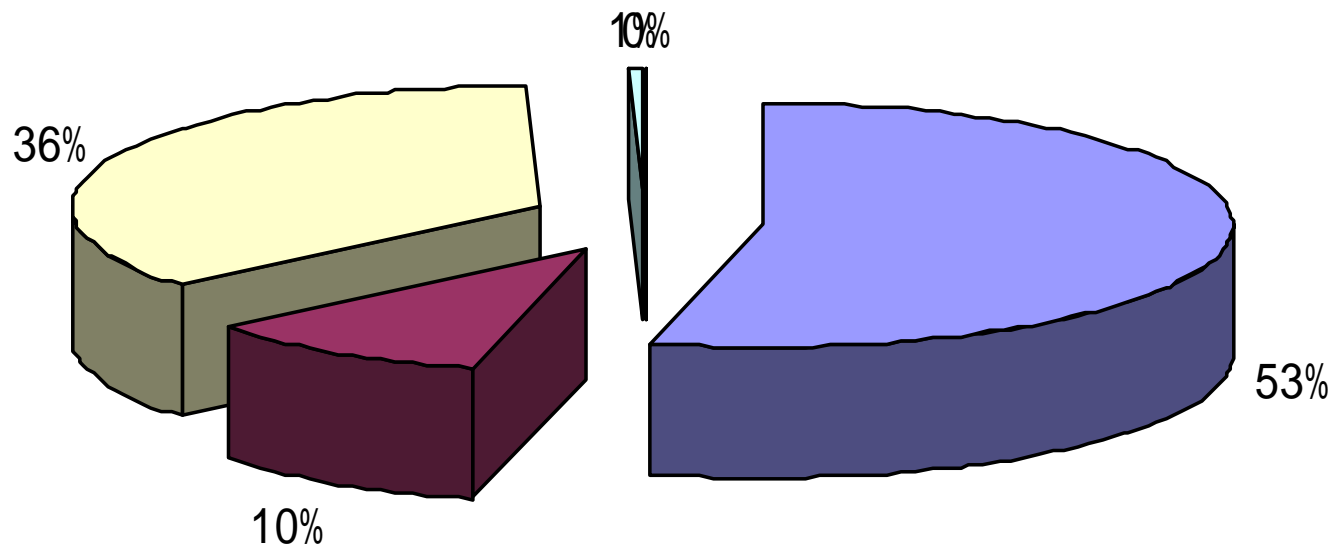
■ 実施 ■ 計画中 ■ 実施予定なし ■ 無回答 ■ 無効

図書館内での文献利用教育



■ 実施 ■ 計画中 ■ 実施予定なし ■ 無回答 ■ 無効

授業における文献利用指導



■ 実施 ■ 計画 ■ 実施予定なし ■ 無回答 ■ 無効

外的要因

- 大学教育改革のながれ
 - 大学設置基準の大綱化(1991)
 - 大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革について」(1998)
 - 大学審議会答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」(2000)
- 電子図書館的機能に対する要請
 - 学術審議会建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」(1996)

大学設置基準の大綱化(1991年)

- 大学教育改革のきざし
- カリキュラム改革, 授業評価, 教授法の改革, 講義概要(シラバス)作成

21世紀の大学像と今後の改革について(1998年)

- 4つの理念
 - 課題探求能力の育成
 - 教育研究システムの柔構造化
 - 責任ある意思決定と実行
 - 多元的な評価システムの確立

グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について(2000年)

- (情報リテラシーの向上)
 - 「・・・大学教育においては、学生に、グローバルな広がり、主体的に情報を収集し、分析し、判断し、創作し、発信する能力を養うことが不可欠である。その際、情報モラルや、情報機器及び情報通信ネットワークの機能にかかわる基本的知識や能力の習得を重視することが必要である。」

大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について(1996)

- 「・・・大学図書館は、これら電子的教材作成、情報リテラシー教育及び学生の自主学習等に対する支援において、その一翼を担うことが求められている。特に、学生向けの利用者教育は、情報リテラシー教育の一環として、大学図書館の協力の下に、全学的に取り組むことができるよう、教育体制の整備が必要である。」

内的要因

- ハイブリッドライブラリにおける利用者支援体制の必要性
- 受動的利用者支援と能動的支援の相互補完

ハイブリッドライブラリにおける利用者 支援体制の必要性

- 図書館のハイブリッド化の進行
 - 資料媒体のハイブリッド化
 - 紙媒体, 電子パッケージ(CD-ROM, DVD等), オンライン情報
 - 所在場所(ロケーション)のハイブリッド化
 - 物理的図書館(自館, 他館), ネットワーク(インターネット)
- 利用者教育から情報リテラシー教育への脱皮

受動的利用者支援と能動的支援

- レファレンスサービス
 - 利用者からの問い合わせを待つ(受動的)
 - 利用者からの個々の具体的な情報要求に応じて随時対応
- 情報リテラシー教育
 - プロアクティブな(先取り型)利用者支援(能動的)
 - 予め体系的, 組織的, 計画的な支援を行う
 - 自立した利用者の育成

事例の紹介 (千葉大学附属図書館)

実施体制

- 情報サービス企画係(情報サービス課)の新設(平成12年4月)
 - － 閲覧係, 参考係 閲覧・参考係, 情報サービス企画係
 - － 定員2名
- 事務分掌規程
 - － 情報リテラシー教育の企画立案に関する事。
 - － 電子情報の運用及び利用普及に関する事。
 - － 集合教育による利用案内及び利用指導に関する事。
 - － 本館に係る資料の展示に関する事。
 - － 広報及びホームページ(センターを含む。)に関する事。
 - － 所掌事務の調査統計に関する事。

概要

- ガイダンスのページの紹介
- 3つのタイプ
 - 図書館主催ガイダンス
 - 図書館が独自に企画する各種講習会
 - 学部学科・グループ別講習会
 - 授業内容に応じた講習会
 - 授業支援
 - 普遍教育科目『情報処理』支援

図書館主催ガイダンス

- 初級プログラム(新入生～2年生向け)
 - 新入生オリエンテーション
 - 図書館利用の基礎
 - 利用者用コンピュータの利用法, 図書館ウェブページの紹介, OPACの使い方
 - 情報検索の基礎
 - 論理演算等検索方法の基礎
 - ウェブのレファレンスツール, 新聞・雑誌記事検索

図書館主催ガイダンス(続き)

- 中上級プログラム(3年生～院生向け)
 - 分野別データベースの検索方法
 - 電子ジャーナルの活用方法
 - 情報の評価と整理(論文作成支援)
 - EndNoteと文献管理
 - 引用の技術
 - プレゼンテーション入門

図書館主催ガイダンス(続き)

- 定期講習会方式
 - いくつかのメニューをセットで繰り返し行う
 - 15年度後期から新たな試みとして導入
- メニュー
 - 図書の探し方
 - 論文の探し方(人文社会系)
 - 論文の探し方(理工系)
 - 電子ジャーナル利用案内
 - 参考資料の活用法

学部学科・グループ別講習会

- 教員からの依頼により実施
 - オーダーメイドの講習会
 - 授業の1コマを図書館での演習・実習等に当てる
 - 要望に沿った内容を教員と計画
 - 授業内容に沿った情報検索ツール, データベースの検索方法
 - 検索実習
 - 当該分野における館内の重要資料の紹介
 - etc.

情報リテラシー授業支援

- 普遍教育『情報処理』の「情報検索入門」を担当
- 授業内容
 - 情報検索とは？
 - 情報要求の発生
 - 情報の探索
 - 検索方法入門
 - キーワードの選択, 前方一致, 論理演算, 再現率と精度
 - 情報の入手
 - 図書館の利用
 - 課題の出題

企画

- **実施時期・スケジュールの策定**
 - 2月に前期(4月～7月)分の計画立案
 - 8月に後期(10月～12月)分の計画立案
- **内容の決定**
 - 基本プログラムを元にして, 目玉となる新ツールのプログラムを盛り込む
 - 要望の多い分野を中心としたプログラムを組む
 - etc.
- **形式の選択**
 - 講義 + デモ形式か, 演習形式か
- **実施会場の確保**
 - ライブラリーホール(講義)
 - リテラシー研修室(演習, PC10台配備)
 - 総合メディア基盤センター演習室(演習)

実施のための準備

- シナリオの作成
 - 話の流れとポイントの確認
- スライドの作成
- 配布資料の作成
- 機器の準備
- 受付, アンケートの準備

広報

- インターネット
 - ホームページ
 - ウェブニュース
 - メールマガジン
 - Library Mail Alert
- 紙媒体
 - ポスター, ちらし

アンケートとフィードバック

1. 今日の講習会で役に立ったことはありますか？
2. 今日の講習会で既に知っていたことはありますか？
3. 今日の講習会で知りたかったのに教えてもらえなかったことはありますか？
4. 今日の講習会でわかりにくかったことや不明な点がありますか？
5. 情報検索・文献検索に関して他に知りたいことはありますか？
6. どのようにしてこの講習会を知りましたか？
7. 他にご意見があればお書き下さい。

日常的な準備

- 情報提供
 - 新しいツールや機能に関する情報提供
- 各ツール類の検索方法の習得
 - データベースや電子ジャーナルの使い方
- サポート資料の作成
- ウェブ上での各種ガイド
 - 主題別情報資源
 - ワールドワイドに本を探す
 - 電子ジャーナルのページ

課題とその解決にむけて

評価

- 国立大学図書館協議会『大学図書館における評価指標報告書』（2002年）
- 図書館パフォーマンスに関する指標を3種類に分類
 - 定量的評価指標
 - 電子図書館サービス関係評価指標
 - 定性的評価指標

評価(続き)

- 定量的指標
 - 図書館ガイダンス(開催回数, 時間数, 参加人数)
- 電子図書館サービス関係指標
 - 電子サービスに関する研修会の実施回数と出席者数
 - サービス対象者当りの研修会の実施回数

評価(続き)

- 定性的評価指標

- 利用教育

- 図書館は公式、非公式の多様な利用教育プログラムを提供しているか？
 - 研修のための施設・設備は、少人数、多人数の利用者グループに対応でき、種々の資源についてプレゼンテーションが実施できるようになっているか？
 - 利用教育に情報技術等が適切に利用されているか？
 - 利用教育は授業とどのように関連して実施されているか？
 - 図書館利用あるいは情報利用に関する授業科目が設定されているか？その場合、科目の開発・評価において教官とどのように連携しているか？
 - 利用教育プログラムをどのように進め、評価しているか？

教育プログラムの確立

- ガイドラインに基づく安定したプログラムの確立
- ガイドライン例
 - 米国大学研究図書館協会 (Association of College and Research Libraries: ACRL)
 - 『高等教育のための情報リテラシー能力基準 (Information literacy competency standards for higher education)』 (2000)
 - 『情報リテラシー教育のための目標 (Objectives for information literacy instruction)』 (2001)

教育プログラムの確立(続き)

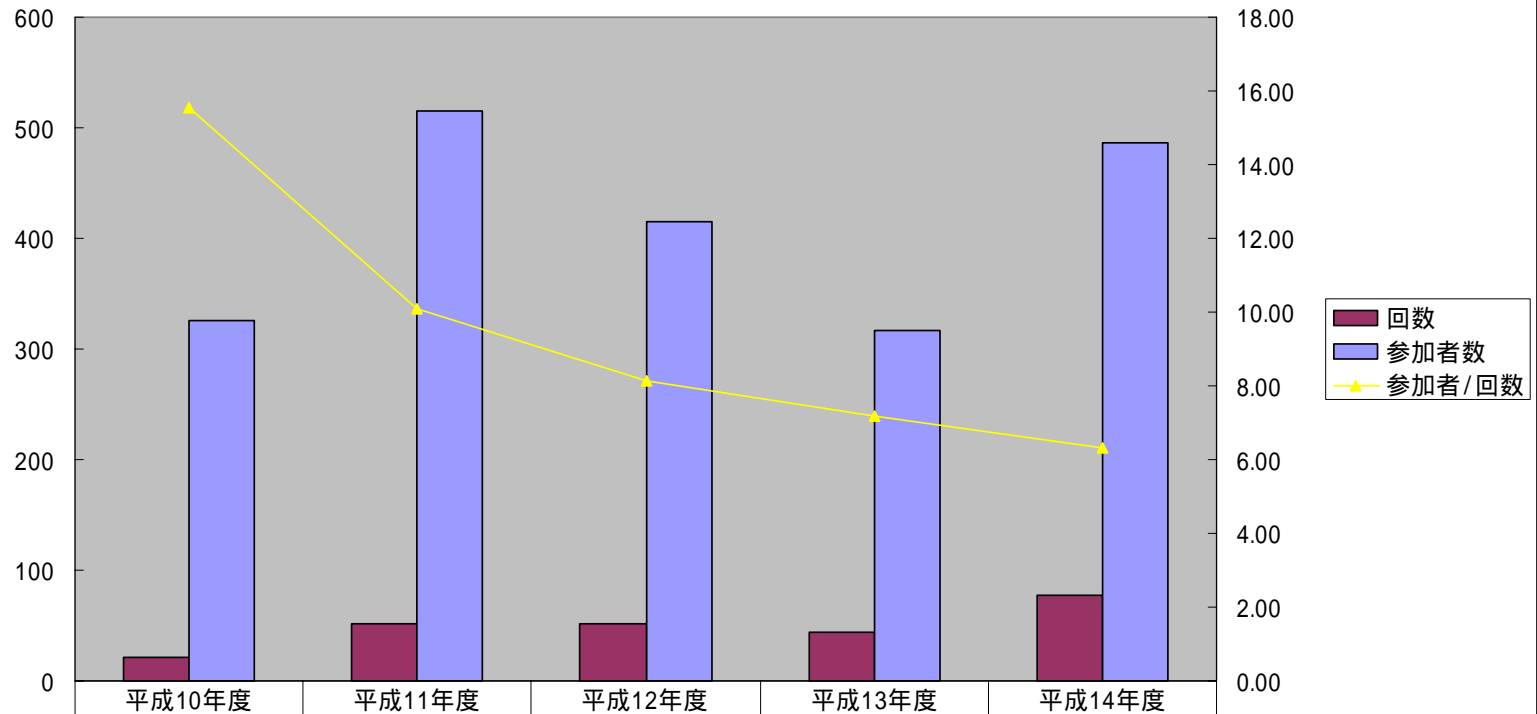
- 『図書館利用教育ガイドライン - 大学図書館版 - 』(2001年)
 - ー 目標と方法
 - 領域1: 印象づけ
 - 領域2: サービス案内
 - 領域3: 情報探索法指導
 - 領域4: 情報整理法指導
 - 領域5: 情報表現法指導
- 『図書館利用教育ハンドブック - 大学図書館版 - 』(2003年)
 - ー 第 部 図書館利用教育ガイドライン
 - ー 第 部 理論編
 - ー 第 部 準備編
 - ー 第 部 実施編
 - ー 第 部 ワークシート集
 - ー 第 部 資料編

受講者数の停滞

- 教育カリキュラムの問題
 - 個別の情報資源 (EJ, DB) 単位での講習会 業者派遣講師への依存
 - 利用者のニーズに对应していない?
- 図書館主催講習会の受講者数の停滞
 - 千葉大学での統計

千葉大学の統計

図書館主催ガイダンス



回数	21	51	51	44	77
参加者数	326	515	415	316	486
参加者/回数	15.52	10.10	8.14	7.18	6.31

新教科「情報」の影響

- 15年度から新教科「情報」が高校で開始
 - 18年度から「情報」履修生が大学に入学
- 情報A
 - コンピュータの基礎技能と情報活用の実践力に重点
- 情報B
 - 情報の科学的理解と機能や仕組みに重点
- 情報C
 - 情報社会に参画する態度を育てることに重点

「情報A」の実習内容

- 問題解決手順(旅行計画, 遠足の計画)
- 情報の伝達・プレゼンテーション(学校紹介)
- 情報の検索, 収集, 発信, 共有
- 情報整理
- 個人情報, 著作権, セキュリティ, ネチケット
- 画像・音声情報の作成・加工
- ウェブページの作成
- 情報通信ネットワークの仕組み

授業密着型リテラシー教育への移行

- 授業に沿った主題・トピック単位の講習会
- 意義
 - 受講の動機付け
 - 図書館サービスの向上
 - 図書館員の資質の向上
 - 図書館に対する評価
- 阻害要因
 - 図書館の「余力」不足
 - 学内での図書館員の地位, 位置づけ
 - 教員側の不安

担当者の育成

- 国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォース「電子ジャーナル利用者教育担当者研修会」
 - 目的
 - 電子ジャーナルの利用者教育担当者の育成
 - 平成13年8月, 14年8月に東西両地区にて開催
 - 国立大学附属図書館のユーザー教育担当者, 計250名が参加
 - 15年度以降は, 国立情報学研究所の「学術情報リテラシー教育担当者研修」に引き継がれる

担当者の育成(続き)

- 学術情報リテラシー教育担当者研修
 - 主催：国立情報学研究所
 - 目的：学術情報リテラシー教育において中核的な役割を担う人材を養成
 - 平成15年度から試行的に実施
 - カリキュラム
 - 学術情報概論，資料調査法，情報検索，電子ジャーナル，権利処理，プレゼンテーション，理論と実際...

情報リテラシー教材共有プログラム

- 東京大学を中心とした試行プロジェクト
- 目的
 - 大学図書館での教材作成を支援
 - 業務の効率化を図る
 - 大学図書館職員の情報リテラシー教育支援能力のスキルアップ

情報リテラシー教材共用プログラム (続き)

• 計画

- フェーズ1: 情報リテラシー教材(素材)の共有(15から16年度)
 - アンケート実施(14年度済)
 - 素材集の公開
 - http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/litera_c/
 - 共通教材(テンプレート)の作成とそれに基づく教材の作成・提供
 - 各大学の担当者の意見交換・情報交換の場を提供
- フェーズ2: オンライン・チュートリアルとしての活用(17年度～)

おわりに

コア・コンピタンスとしての 情報リテラシー教育

- コア・コンピタンス
 - 「企業が競合他社に対して圧倒的に優位にある事業分野や他社にはない独自の技術やノウハウを集積している中核となる部門やサービス」
 - アウトソーシングされない部門
- 「情報リテラシー教育」= 図書館のコア・コンピタンス？
- 情報リテラシー教育を図書館の経営，政策上の重要な戦略として位置づけることが必要